

関東ブロッククラブネットワークアクション 2019 開催報告

日 時： [1日目] 令和元年 11月9日(土) 13:00 ~ 17:00
[2日目] 令和元年 11月10日(日) 9:00 ~ 12:00

会 場：富士吉田市民会館

内 容：テーマ：「未来に向けたクラブの運営 ～地域スポーツのあり方を考える～」

[1日目] 1. 開会式

2. 共通プログラム「総合型クラブ登録・認証制度の創設に向けた情報交換」
3. ブロック独自プログラム「登録・認証制度について」
4. 日本スポーツ協会からの情報提供
5. 事務連絡

[2日目] 1. 独自プログラム 講演「地域に密着したクラブづくり」

山梨クィーンビーズバスケットボールクラブ代表理事 芦澤 薫氏

2. 独自プログラム「情報交換」(分科会×4)
テーマ「5～10年後のクラブ像について」
3. まとめ・閉会式

参加者：76名

【概要】

「関東ブロッククラブネットワークアクション2019」は、開催前月に発生した台風による災害等の影響もあり、当初見込んでいた参加者120名を下回る76名の参加者で、11月9日・10日の両日、山梨県富士吉田市民会館を会場として行われた。

1日目の「共通プログラム」では「総合型クラブ登録・認証制度の創設に向けた情報共有」について創設の経緯・意義等を高田実行委員長が、続けて、具体的内容を日本スポーツ協会事務局が行った。

その後の「ブロック独自プログラム」では、参加者を10グループ(6～7名)に分け「登録・認証制度について」の意見交換を行い、全体への提言や新たな質問等を出し合った。

2日目は、まず「地域に密着したクラブづくり」と題し、バスケットボール女子Wリーグの「山梨クィーンビーズ」代表理事 芦澤薫氏の講演を行った。

最後のプログラムでは、本大会のテーマである「未来に向けたクラブの運営～地域スポーツのあり方を考える～」にそって、「ヒト・モノ・カネ・後継者」を切り口に、5～10年後のクラブ像をどう描くかなどについて情報交換を行った。

【内容】

[1日目]

共通プログラム「総合型クラブ登録・認証制度の創設に向けた情報共有」

以下の内容についての解説が行われた。

[登録制度の背景・必要性(関東ブロック実行委員会 高田委員長)]

- ・総合型クラブが公益的な取組を実施するために必要な要素
- ・登録・認証制度の必要性
- ・総合型クラブが公益的な取組を実施するために行政・総合型クラブそれぞれに求められる取組

〔登録制度のスケジュール、制度原案の概要、制度の効果（日本スポーツ協会事務局）〕

- ・登録・認証制度創設・運用に向けたスケジュール
- ・登録・認証制度の原案、「登録」と「認証」のイメージ、登録・認証基準
- ・登録申請から登録認定までのフローチャート、登録・認証制度に係る登録料
- ・登録・認証制度の運用に係る経費、登録・認証制度がもたらす効果

上記の解説後、質疑応答が行われさらなる解説が加えられた。

〔質問〕

- ・「登録・認証制度」を管轄する機関、責任主体はどこか。
→ SC全国ネットワークであると考えている。
- ・行政への説明がどこまで行われるのか。
→ スポーツ庁と連携して、計画的に説明会等を実施していきたい。
- ・線引きをして切るのではなく、多くのクラブが入れるような仕組みとして考えているのか。
→ 底上げを促したり、拾い上げたりしていきたい。登録を機に行政をまたいだ対応を考えたい。



独自プログラム 意見交換「登録・認証制度について」

6・7人ずつの10グループに分かれ、山梨県の役員が進行役を務め、情報交換を行った。

山梨県で用意した「登録・認証制度の意義や効果、または制度が必要となった意味や背景」「中間支援組織や登録審査委員会の準備や設置は進んでいるか」「登録基準の例について、また各県独自の基準について」「この制度についての説明会や周知のための取り組みなどどうなされているか」「各県の連絡協議会の状況について」「登録・認証制度の取り組み計画について」といったテーマを提示し、時間の範囲内で、参加者の周辺（所属クラブ、都道府県、市町村 等）でどのような説明や話がされたり、理解や周知等進んでいたりしているのかなど話し合った。必要に応じ各グループに入っている関東ブロックの実行委員が説明や解説を行い、話し合いを進めてもらった。

60分の時間ぎりぎりまで活発に、また、いい雰囲気で話し合いがなされた。

その後、全体への提言や再度質問があればということで、以下のような内容が出された。

- ・クラブを植物に例えて、10数年畑作りからはじまり、肥料や水をやりながら大切に育ててきた。今後、どのような実や花を咲かせたらよいのか。地域や実情の違いはあるが考えを定めていきたい。
- ・新たな発見をいくつもすることができた。グループ内の参加者それぞれに違った背景や実情があることを知り、自分の立場や実態に置き換え考え直す良いきっかけとなった。
- ・登録・認証制度を契機に周囲のうまくいっていないクラブを引き上げることができればと思う。行政とうまくやっていったり、連携フォーラムなど活用したりしていきたい。

最後に、独自プログラムのまとめということで、関東ブロック実行委員会の小出副委員長が、「チェックリストを作成し取り組んできている」「大切にしてきたのは多様性」「地域にあったモノを地域の人々で作り上げていく（＝地域性）」「ドイツをモデルとし、多くの人を巻き込むためにも財源確保など基盤整備や工夫を」「大変なことだが、新しい考え方を取り入れて頑張っていきたい」といった内容を分かりやすいメッセージとして発信してくれた。



[2日目]

独自プログラム 講演「地域に密着したクラブづくり」

山梨クィーンビーズバスケットボールクラブの芦澤 薫代表理事に講演をしてもらった。

主な内容は、

- ・山梨クィーンビーズの歩み
- ・クラブ理念
- ・活動方針
- ・Wリーグとは
- ・Wリーグ参加に関わる経費
- ・プレイヤー及びスタッフ
- ・理事会やファンクラブ
- ・後援会やスポンサー

講演は、クィーンビーズの前身で企業チームであった「日立甲府」から、クラブチームへの転身、また、解散の危機からの再出発。その中での支援の広がりやスポンサー獲得など「総合型クラブ」にとって参考になる内容が多く有意義な講演となった。公演後、何点か質疑応答がなされた。



独自プログラム 情報交換「5～10年後のクラブづくり」（4分科会）

4つのグループにわかれ、関東ブロックの実行委員が司会・記録を務め、情報交換を行った。

本大会のテーマである「未来に向けたクラブの運営 ～地域スポーツのあり方を考える～」を視野に入れながら、切り口として「ヒト・モノ・カネ・後継者」のキーワードから、参加者がそれぞれの実情に応じて持続可能なクラブづくりのために取り組んでいること悩んだり困ったりしていることを出し合いながら話し合った。どの分科会も時間いっぱいまで活発で中身の濃い話し合いがなされた。

話し合いの最後は、各分科会に入っている関東ブロックの実行委員が、感想や解説等を含めたまとめの話をして、分科会を終了した。

閉会式

- 総評（菊池正 関東ブロック実行委員 代表）

開催県への慰労や感謝の言葉に続き、今回の台風災害で被災し、避難所において大変な経験したことを元に、「いかに自分が自立して生きていくか、自分たちのクラブが目的・目標をもってどう生きていくか（活動し取り組んでいくか）が大切である」というメッセージを残してくれた。

- 次年度開催県あいさつ（平林知巳 群馬県連絡協議会長）

来年の11月1・2週目で高崎市での開催を予定している。その際は、半年後に迫った「登録・認証制度」を活用して、人口が減るなどしても持続可能なクラブになるような話し合いになれば。

- 閉会のあいさつ（高田忠則 関東ブロック実行委員長）

「制度実現に向けて協力していきたい」「熱い情熱をもち続けたい。そのためにも、こうした機会が大切」「スポーツ実施率を底上げできるのは「総合型クラブ」というメッセージが発信された。

【まとめ】

準備段階で一番心配していた「登録・認証制度」へのネガティブな意見や否定的なイメージが広がるといったことは、ほとんど感じることはなく二日間を終えることができました。

そうなった一番の要因は、日本スポーツ協会を中心とした中央からの説明や対応が丁寧で計画に基づいて行われていること。また、リーダー的な立場の関東実行委員会のメンバーが、関東全体のクラブのことを考えながら、前向きに捉えようという言動を常に行ってくれたからではないかと感じています。今後、計画や取り組みがより具体的な段階に入っていく中でも、こうした状態が維持されて、様々な実態をもつ各クラブに追い風として受け止められることを期待しています。

「登録・認証制度」にかかわっての一番の課題は、都道府県や市町村の行政にどのように理解させ、重要施策として受け止めさせるかだと思います。そして、制度がスタートするこの機会を「総合型地域スポーツクラブ」の大切な節目として意識し、将来的な「地域スポーツの在り方」につながるためにも重要であるといった視点を認識してもらえるかどうか重要だと感じています。

目の前に迫った「東京オリンピック」への対応や、スポーツを取り巻く様々な課題等山積する中ですが、日本スポーツ協会とスポーツ庁がまさに連携・協働して、「2020」のレガシーにできるように、「登録・認証制度」中心に「地域スポーツの推進」に関わる新たな取り組み等を力強くリードしていってもらえたらと思っています。

(関東ブロッククラブネットワークアクション実行委員長 高田 忠則)

※本ネットワークアクションは、東京2020応援プログラム(スポーツ・健康)として実施しました。

